

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSW ニュース 3月号

2020年3月1日発行

事務局：大浜第一病院

〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 - 5171

FAX (098) 864 - 1874

E-mail t-matayosi@ns.omotokai.jp

編集：大城 将平

(沖縄リハビリテーションセンター病院)

\*\*\*\*\*

MSWニュースは毎月1日

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

ホームページに更新掲載されています

<http://www.msw-oaswhs.jp/>

\*\*\*\*\*

◆ c o n t e n t s ◆

|                           |       |
|---------------------------|-------|
| 研修会参加報告                   | P2~4  |
| 自主勉強会報告                   | P5~6  |
| トピックス「沖縄タイムス 暮らし相談室 (医療)」 | P6~7  |
| 部会からのお知らせ                 | P7~8  |
| 2月理事運営会議録                 | P8~10 |

## 研修報告

### 沖縄回復期リハビリテーション病棟協会 第28回研修会

「以前に比べて働き世代の入院患者、増えてきた気がしません？」  
～回復期リハ病棟を退院する介護保険対象外患者の個別支援を考える～

大浜第二病院 医療福祉課 安慶名真樹

この研修会は回復期病棟協会主催の、年3回定期的にある研修会の1つで、今回は第28回の開催となります。令和2年1月31日(金)19時～上記タイトルの研修会に参加してきたので報告します。今回は県福祉センターで、講師にNPO法人わくわくの会、小浜ゆかり氏による介護保険対象外患者の個別支援について講演していただきました。小浜氏は、作業療法士の資格を持つ相談支援専門員でもあり、「相談支援事業所さぼーとせんたーi」の所長を務めている方で、講演の中で、マネジメントや国際機能分類(ICF)の概念、障害者総合支援法を基に、現状の障害福祉サービスの枠組みや、具体的な申請からサービス利用までの流れを説明して頂きました。

サービスを調整する相談支援事業所の担当者は、利用者のニーズを拾い上げアセスメントし、サービス計画を立て利用者と契約のもと、サービスを実施しモニタリングしながら計画を変更していく、という介護保険でいうケアマネージャーと同様、一連の流れがあることが理解できました。利用者によっては介護保険サービスと併用して、障害福祉サービスを必要している方もおり、制度の垣根を越えてケアマネージャーと協働しているケースもある事や、相談支援専門員の担い手の不足から、サービス利用の必要な方が、利用までに時間がかかっている苦しい現状などの報告もありました。また、フォーマルサービスには限界があるが、「個別支援会議から持ち上げられた課題について地域全体の課題として普遍化していくシステム」として、社会資源の改善及び開発のために地域自立支援協議会が各市町村に設置されており、地域で障がい者を支えるために、日々既存サービスの改善や地域独自の資源開発にも各関係機関で取り組んでいる、という報告が印象的でした。

私たち病院関係者やソーシャルワーカーも、支援者として障がいを持った方が地域で暮らしていくに当たり、利用しにくい制度の運用や、必要と思う資源について日々感じる事があれば、ぜひ声を届けてほしいとの事でした。皆さんも一度、沖縄県自立支援協議会のホームページをのぞいてみませんか。

### 2019年度 沖縄県医療ソーシャルワーカー協会 中堅者研修

インテグレイティブ・ショートタイム・トリートメント総合的短期型支援(ISTT)を学ぶ

ハートライフ病院 患者総合支援センター 医療福祉相談室 徳盛 宏賢

令和2年2月8日(土)、ハートライフ病院で開催された研修に参加したので報告します。講師のルーテル学院大学名誉教授 福山和女氏、日本社会福祉事業大学教授 小原真知子氏より、スーパービジョン体制構築のためにソーシャルワーク業務を活性化するための業務行動プログラミングについて学びました。

プログラミングとは自分で考え、評価・分析・結果を想定することができるものであり、初心者・中堅者・所属長、それぞれが自分で業務行動をプログラミングする事でやりがいと自立、責任を持つことに繋がる。その反面、個々が好きなようにプログラミングを立てることは組織に影響を与える危険性があるため、所属長は部下の立てたプログラミングを支持しつつ、倫理に基づいたスーパービジョンをおこない危険性を補填する役割が大切であると学びました。

実際に講師にアドバイスを頂きながら、グループで朝の申し送りの業務行動プログラミング化をおこない、所属長、部下と役割を分けロールプレイを行いました。私は部下役として担当ケースを所属長役へ報告をおこないました。報告を支持されることや、ケースをすすめる上での注意点について理論に基づいたアドバイスを頂くことで、自己肯定感が高まることを実感するとともに、ケースの注意点を理解することができました。

今回の研修で学んだ業務行動プログラミングについて今後も学習し理解を深め、日々の業務に活かしていこうと思います。

---

## 2019 年度 沖縄県医療ソーシャルワーカー協会 中堅者研修 インテグレイティブ・ショートタイム・トリートメント総合的短期型支援(ISTT)を学ぶ

沖縄赤十字病院 地域医療連携室 兼濱 愛里

---

2月8日(土)にハートライフ病院で開催された中堅者研修「インテグレイティブ・ショートタイム;統合的短期型支援(ISTT)を学ぶ!!」に参加しました。研修の案内に、「より効果的で効率的な支援方法を学ぶ」とあり、急性期において短期間の介入で支援が十分に行えているのかと日々悩んでいるため、その支援方法を知りたいと思い受講しました。

ルーテル学院大学名誉教授の福山 和女先生と日本社会事業大学教授の小原 眞知子先生という豪華なお二人の講師の進行のもと、研修はグループディスカッション形式で行われました。最初に、研修目的である「スーパービジョン体制のためにソーシャルワーク業務を活性化するための業務行動プログラミング方法を学ぶ」という言葉の意味をグループで話し合いました。その目的は、言葉の意味を考え、追求、探求すること。

プログラミングとは、目的の設定を行い結果も想定した上で行動し、分析、評価をソーシャルワーカー自身が自己決定していきます。プランニングが、誰が取り組んでも同じような過程になるのに比べ、プログラミングはソーシャルワーカー個々の存在と行動が結びついたうえで実行される多様なものだということです。

同じ言葉を聞いても、内容をどのように捉えるかは人によって異なります。相手が理解していると思って支援を進めていくと、クライアントの想いとギャップが生じることがあります。クライアントの想いに寄り添いながら支援を行うソーシャルワーカーは、相手と自分の認識が共通かどうか常に敏感である必要があります。そのためには自分自身が言葉の意味をどのように捉えているかを自分自身で気が付いておくことが重要なのだと研修を通して実感しました。

私たちソーシャルワーカーは日々の実践現場では他者の喜怒哀楽などの感情や人生の転換点に多く触れます。個人的には時にプレッシャーともなるそれらの出来事は、ソーシャルワーカーとしては避けては通れません。実践現場では起こりうるという覚悟を持つこと、その上で自分自身がどのように対処し行動していくかが問われていると思うと身の引き締まる思いです。

丸一日の研修でしたが、濃密で時間があっという間に過ぎました。私は実践現場におけるソーシャルワーカーの「正解」が知りたくて参加しましたが、そんな浅はかな期待を良い意味で裏切ってくれた深い内容でした。お二人の先生の時に厳しくも、現場で活動する私たちを鼓舞してくれる言葉の数々にエネルギーをたっぷりもらった研修でした。

---

## 2019 年度 沖縄県医療ソーシャルワーカー協会 中堅者研修

### インテグレイティブ・ショートタイム・トリートメント総合的短期型支援(ISTT)を学ぶ

那覇市立病院 医療福祉相談室 系数 真理子

---

令和2年2月8日(土)、ルーテル学院大学名誉教授 福山和女先生と日本社会事業大学 教授 小原真知子先生を講師に迎え、研修に参加しました。

研修の目的は「スーパービジョン体制構築のためにソーシャルワーク業務を活性化するための業務行動プログラミング方法を学ぶ」という壮大な内容で、「ソーシャルワーク業務行動のプログラミングをする」事が目標でした。研修はグループワークで行われ、まず「プログラミング」とは何か、「プランニング」とどう違うのかをグループで考えてみました。計画の方法や手順を立案する「プランニング」に対して、「プログラミング」は自分がやりたいと思う業務について事前に考え分析し、何%達成できるかまで想定・決定・評価するのだそうです。なぜプログラミングが必要なのかというと、私達が普段行っている業務行動をプログラミングする事で、普段やっている事を表現でき意識化され、個人の自律性が高められるのだそうです。

グループワークでは「朝の申し送り」を 10 項目に分けてプログラミングしてみました。申し送りは何を目的・目標にしているか。それをやる事による想定分析・想定評価を考えてみました。過ぎてみればあっという間の 1 日で、理解するにはあまりに少ない時間でした。

研修内容を皆様にお伝えする事はとてもできませんので、次に感想だけ述べさせて下さい。

私はこの研修を終えて最近考えさせられる事を思い出しました。私達が日々行っているソーシャルワーク業務を組織にどう示したらいいのか。全国的に入退院準備センターの設立が進み、私の病院でもスムーズな入退院支援を目的に組織編成が行われています。病院という医師・看護師・薬剤師等の医療の専門職軍団と肩を並べて働くソーシャルワーカーですが、その働きをどう言語化し根拠付けて説明するか、その難しさを感じる今日この頃です。

研修を振り返って、日々に追われるだけでなく中堅者としての自覚を持ち、業務を表現できること、意識化する必要性を感じさせられました。研修内容を落とし込む作業はまだですが、気づきがあった事は良しとさせて頂きます(笑)

仕事に自信が無い時、迷う時は研修を受けて刺激を受けるという解決策も見つけました。お付き合い頂きありがとうございました。皆様、日々の業務いつもお疲れ様です。

## 在宅医療・介護連携 報告

※3月報告は休載します

### 自主勉強会報告

#### めだかの学校

大浜第二病院 医療福祉課 謝敷奈津子

去った2月14日にめだかの学校にて、今年度2回目の試みとなる「事例検討」を開催しました。事例提供者として宜野湾記念病院 西原さん、スーパーバイザーとして那覇市立病院 伊禮さんを招き、事例の振り返り・意見交換を行いました。

西原さんからの事例では、「本人・家族が望まない退院先への支援」を題として、前任者からの引き継ぎで途中介入、前任にて施設を数十カ所相談し、受け入れ可能施設は1カ所のみ、家族とは1度も直接会えずに電話連絡のみでの支援になってしまった事をポイントに、「これで良かったのだろうか、他に出来ることはあったのでは？」という、もやもや・不安全感をメンバー内で共有し振り返りを行いました。事例を振り返る中で、MSWとして様々な選択肢を提示し、病室へも度々足を運び面談を行い、本人・家族の気持ちや意向を尊重しながら、当初望んでいなかった退院先だとしても、最終的には本人・家族が自身の意思で行った選択に、出来る限り寄り添っていたのではないかと、という気づきや意見がありました。立ち止まった際は倫理綱領に振り返り、私達MSWが行うべき支援は、患者様の希望を叶えることではなく、目先の希望に囚われず、その先の利益を追求していく事である事を改めて確認し、患者様やご家族のその人らしさを理解した上で、自己決定に寄り添っていきたいと全員で共通認識できた会となりました。

新人MSWとして奮闘している私達ですが、先輩方の指導やアドバイスを受けながら、少しずつ成長していけたらと思っております。西原さん、伊禮さん準備・進行ありがとうございました！これからもより良いソーシャルワークが出来るように次年度も勉強会頑張っていきたいと思っております！

※めだかのホームルーム:3月は休載します。

※めだかの放課後:3月は休載します。

---

## OGSV参加報告

株式会社 千家 香村真範

---

去った1月29日(水)、那覇市立病院カンファレンスルームにて、第8回沖縄県ソーシャルワーク学会へ向け予演会を行いました。今回はMSW協会を代表して、勝山病院 漢那望さん、那覇市立病院 松崎暁さん、大浜第一病院 与那覇拓也さんの3名が発表を予定しています。

まず、漢那さんの発表では、「自己評価からMSWの退院支援を考える」と題し、回りハ病棟や療養病棟に属する6名のMSWの退院支援業務を自己評価し分析した報告でした。松崎さんは、「航空機搬送の標準的支援構築に向けた取り組み」というテーマで、旅行中に心肺停止となり呼吸器管理を要する状態での本土への搬送(転院)調整の発表でした。与那覇さんからは、「脊髄損傷患者の退院支援を通じて」というテーマで、課題中心アプローチを用いた支援過程を分析した内容でした。

日々の業務の中で、ケースやソーシャルワーク実践を振り返る事は大変なことでもありますが、皆さんの発表を聞いて改めてその大切さを感じました。先輩方のアドバイスが少しでも参考になって勇気づけられる会になっていたらいいなと思いました。学会での発表を楽しみにしております。お疲れ様でした！

---

### トピックス

---

沖縄タイムス 暮らし相談室(医療)  
『患者の葛藤 解決する糸口 ～話し合い重ね意思決定～』

沖縄タイムス暮らし相談(医療)  
2019年2月17日(月)掲載済  
沖縄県医療ソーシャルワーカー協会 大久保 礼子

---

「まさか自分がこの病気になると思わなかった」。相談を受ける際、とてもよく語られる言葉です。病気の発覚はとてもショックなことで、さまざまな感情や考えが錯綜(さくそう)します。その混乱の中で患者さんは自分や家族、社会と向き合い、重要な決定を重ね前に進んでいきます。時には、患者さんが望む選択肢が現実的には見つからずに、自分で決めることを放り出したくなるほどつらい状況や、決めたことが揺らぐことも多々あります。

ある方は、病気を治すために妊孕性(にんようせい)を失いました。治療が落ち着いた頃の面談で、治療前まで思い描いていた母親としての自分や、子どものいる家族像を「やっぱり諦めたくない」と、何度も泣きながら話しました。もちろん、夫婦2人での暮らしも十分考えた上での話。夫婦で子どもを育てたい気持ちをとても強く持っていたので、養子縁組という選択肢について慎重に情報提供をしながら、近い経験を持つ方との交流の場に

つなげました。その後の面談では、夫婦関係のこと、病気の再発への漠然とした不安、復職が話題となることもあり。しばらくして、夫婦で話し合いを重ね、専門機関での手続きを進めることにしたと教えてくれました。

私たちソーシャルワーカーは、支援経過を通して、これからの生活を日々一緒に考えます。そこでは、その方のこれまでの経験、暮らしぶり、大事にしてきたこと、時には死生観が語られます。その方それぞれの強さ、弱さ、優しさ、ユニークさなど、いろいろなことを知ることができます。たくさん話していただいたそこそが、葛藤を解決する糸口になります。要は、その人らしさを十分理解した上で、意思決定を支えていきたいと考えています。たくさんあなたのあなたらしさを聴かせてください。

\* 2019 年度、毎月第 3 月曜日の沖縄タイムス「くらしの相談室(医療)」欄に掲載されます。

皆さんご覧になって下さい。

## 部会からのお知らせ

### 3 月研修部だより

#### めだかの学校(おおむね経験年数3年未満)

|       |           |
|-------|-----------|
| テーマ   | 次年度活動計画   |
| 日時    | 調整中       |
| 会場    |           |
| 参加費   | 無料        |
| 問い合わせ | 大浜第二病院 謝識 |

#### めだかのホームルーム(おおむね経験年数3年以上)

|       |                   |
|-------|-------------------|
| テーマ   | 事例検討会 ※調整が入る可能性あり |
| 日時    | 3月4日(水) 19:00~    |
| 会場    | 嶺井第一病院            |
| 参加費   | 無料(飲食代100円)       |
| 問い合わせ | 沖縄協同病院 地域連携課 松永   |

#### めだかの放課後(経験年数5年以上)

|     |      |
|-----|------|
| テーマ |      |
| 日時  |      |
| 会場  | 中頭病院 |

|       |                 |
|-------|-----------------|
| 参加費   | 無料(飲食代200円)     |
| 問い合わせ | 大浜第一病院 医療福祉課 當銘 |

## OGSV

|       |                         |
|-------|-------------------------|
| テーマ   | 次年度計画 その他               |
| 日時    | 3月11日(水)<br>19:00~20:00 |
| 会場    | 検討中                     |
| 参加費   | 無料                      |
| 問い合わせ | 沖縄国際大学 樋口               |

発行 2020年2月17日  
研修部 香村真範

## 2月理事運営会議録

---

### 2019年度 MSW 協会理事会 2月議事録

2020年2月17日(月) 19:00~20:30

場所: 県総合福祉センター

---

【出席者】 樋口会長、新垣副会長(司会)、伊禮、安慶名、大久保、石郷岡、香村、長(書記)

【欠席者】 又吉副会長、當銘事務局長、秦、山城、小橋川

【委任者】 秦、小橋川、高江洲

#### 【報告事項】

#### 1. 各部報告

〔研修部〕 香村理事、長理事 ※別紙資料「3月研修部だより」

##### 1) めだかの学校

3月: 次年度活動計画について検討

##### 2) めだかホームルーム

事例検討会3月4日だったが、他の会合と重なり変更調整中

##### 3) めだかの放課後

日程調整中 教育ラダーについて

##### 4) OGSV



3月11日(水) 19:00~20:00 中堅者研修シラバスについて など

会場: 今後、那覇市立病院での開催は難しい(駐車場の問題で) → 沖縄協同病院を検討

#### 5) 中堅者研修

日時: 2020年2月8日(土) 実施

テーマ: 「ISTT③」3回シリーズの最終回「業務行動のプログラミングについて」

参加者: 27名

参加者アンケート今月中に集計、講師へのお礼状に添付して発送予定

決算報告は次回理事会で

#### 6) 九州MSW協議会 教育研修部 定例会議参加報告 (香村理事)

(1) MSW協会九州地方宮崎大会の告知

2020年10月23日(金)、24日(土)

10月25日(日) 中堅者研修「スーパービジョン」

(2) 九州版キャリアラダー手引き作成・ラダー活用について

日本協会、実施している各県のものも参照に→「評価」に重点を置いている

九州各県で研修の企画運営に苦慮している現状を共有

→それを支えることができるようなラダーを作れるように

愛知大会(6月頃)での目標に進捗報告

(3) 大分県協会「ソーシャルワーカーの災害時 行動指針」の報告

#### 〔広報部〕安慶名理事

MSW ニュース 3月号担当: 沖縄リハビリテーションセンター病院 大城さん

各医療圏の報告→デザイン事業のものを今年度掲載 次年度の掲載方法も検討中

タイムス記事(第三月曜掲載): 3月 小橋川理事(牧港中央病院)

はいさいワーク: HP更新において、募集終了したものが残っているため、掲載委終了の連絡も必要

#### 〔社会活動部〕

那覇市チャージがんじゅう課 認定グループとのミーティング報告(伊禮理事)

3月4日(水) 18:30~@大浜第一病院

認定グループと当協会員の中間報告と意見交換開催計画

→新型コロナウイルス感染拡大予防のため、延期

〔その他〕(新型コロナウイルス感染拡大予防のため、延期・中止の可能性あり)

1) 2月21日(金) 沖縄県老健協会 研究発表大会 @ダブルツリーヒルトン首里

2) 2月22日(土) 4団体 ソーシャルワーク協議会 研究発表会 @沖縄大学

新型コロナウイルスの注意喚起あるが、開催する方針

昼休憩で交流会を初開催予定だったが、中止

3) 全国精神障害者地域生活支援協議会 九州・沖縄ブロック研修会「常識をやめる実験。」

2月22日(土) 13:30

4) 第11回沖縄HIVカンファレンス

2月29日(土) 13:00~17:00 @琉球大学研究者交流施設・50周年記念館

5) 3月7日(土) 中脾腫、アスベスト、肺がんセミナー @厚生会館(那覇市)

6) 3月14日(土) がん相談支援専門員研修「がんになった親を持つ子供への支援」@那覇市立病院

**[事務局]**

・会員動向 なし

**【審議事項】**

1. 理事の人事について

次年度は2年1期の改選の年。会員に立候補、推薦の案内も検討。

立候補や推薦の有無を確認し、理事人事案を作成、次年度総会で承認を得る。

事務局体制の見直しも検討課題

※今後は各部会の部長、副部長を一般会員に担ってもらい、担当理事がサポートする方針も検討

2. 入退院支援連携デザイン事業

テーマ：ヴァルネラビリティ(社会的な脆弱性を有する人)への入退院支援のあり方

日時：2020年2月26日(水) 19:00~20:30(受付18:30~)

場所：県総合福祉センター 東棟501

→沖縄県高齢者福祉介護課と協議の上、新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止

次回理事会 2020年3月16日(月) 19:00~ 司会：安慶名 書記：高江洲 連絡：長

**◆編集後記◆**

県内でもコロナウイルスの発生報告が聞かれてきました。特に医療現場で働く私達は「もらわないうつさない」などより注意が必要です。何はともあれ体が資本ですので体調管理をしっかりと行って参りましょう。

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会のホームページ  
<http://www.msw-oaswhs.jp/>